



12本のうち8本が完成した鐘塔

サビエル生誕五百年

巡礼の道

46

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

未完の聖家族教会

今、世界中の人から「いつ完成するのか」と注目を集めている建物がスペインのバルセロナにある。

日本人彫刻家も、その建築にかかわり、テレビドキュメンタリー番組で紹介されたりしたので、日本から訪れる観光客も多い。

「神の建築家」とも言われるアントニオ・ガウディが設計し、建築にかかわった「サグラダ・ファミリア」(聖家族贖罪教会)である。直訳すれば家族の罪の許しを願う教会。イエス・キリストの父親にあたる聖ヨゼフを信奉する団体がこの建物の建設を始めた。

着工したのが今から百二十五年前の一八八二年。しかし今もやっと半分ができただけで、出発前にガイドブックなどで調べると「百年から二百年のうちに完成予定」とあった。

「すごい彫刻群!!」建設機械などが発達した現代に、なぜそんなに長い歳月がかかるのかという疑問があったが、実際に見てみると、そのスケールに圧倒された。

中世の聖堂は建物の正面(ファサード)の彫刻などに力が入られている。

以前訪れたマカオの聖パウロ天主堂は焼失したのにファサードだけが焼け残り、今は観光名所になっている。聖家族教会のファサードは聖書の彫刻物語とでも呼べるようにすごい彫刻が施されているのだ。

「三つのファサード」ファサードは建物正面という言葉通り一カ所が多いが、大きい教会には数カ所あり、この建物にも三カ所にファサードがある。

「生誕」「受難」「栄光」からなり、それぞれに聖書の物語が彫刻で表現されている。

一つのファサードの上には四本の鐘塔がある。つまり鐘塔だけで十二本。一つの高さが約百メートル。近くからの写真では、余りに巨大で全体像がわかりにくいので、絵はがきの写真を使わせてもらった。

向こうに見える海は地中海。左右に四本ずつの鐘塔がある。左側が「受難」のファサードの鐘塔、右側が「生誕」のファサードの鐘塔である。

この間にもう四本の鐘塔が「栄光」のファサードの上に建設される。訪れた時「受難」の



残る鐘塔4本の建設現場

鐘塔に取りつけてある見学者用エレベーターで上に昇り、そこから写したのが下の写真である。

「十八の塔」

十二の鐘塔はキリストの十二使徒を表している。ところが塔はこの十二本だけではなく三つのファサードを結ぶ中央聖堂の上に高さ百七十メートルのイエス・キリストを象徴する塔が建てられ、さらにその横に聖母マリアに捧げられる高さ百二十五メートルの塔と、聖書の中の福音書を書いたマタイ・マルコ・ルカ、ヨハネの四人の塔が建設されるので、何と合計十八の塔がある。

八の塔がそびえ立つというのである。

「完成は20年後?」現地ガイドによるとこの教会は信徒の寄付を中心に建てられ、一時、資金難で工事が中断されたこともあった。今はたくさんの人が入場料で資金は大丈夫。二十年後には完成と言う。だれも正確にいつ完成するかわからないというのが面白い。完成後の教会を想像するだけで胸が高鳴る。これほどの設計をしたガウディとはどんな人なのだろうか。(元山口放送取締役ラジオ局長)